

# 種苗量産化技術高度化事業 (カサゴ)

今吉雄二，松原中，今村昭則

本事業では，カサゴ種苗の量産技術開発および高度化を目的として各種試験に取り組んできた。  
量産技術開発については，これまでに蓄積された手法を踏襲しながら，21年度には低塩分飼育法を導入。5万尾を上回る生産に成功した。

本年度は，21年度に生産した種苗を放流用として出荷するとともに，養殖対象としての可能性を検証するため，小規模育成試験を行った。

## 1．種苗出荷

21年度生産分の種苗を県内2カ所に出荷した。詳細は表1のとおり

表1 平成21年度生産分カサゴ種苗出荷概要

出荷先	出荷日	尾数	サイズ(平均全長)	用途
北さつま漁協	4月23日	20,000尾	43.06mm	地先放流
指宿市漁協	4月26日	19,000尾	〃	〃

## 2．育成試験

生産した種苗の養殖対象としての可能性を検証するため，陸上水槽による小規模育成試験を行った。

### 【方法】

- ・供試魚：21年度生産種苗  
日令106(平均全長43.06mm)，1,000尾
- ・使用水槽：2 t 円形FRP製
- ・使用海水：ろ過海水(水温調整は周年行わず)
- ・換水量：約1 t / 時間(約15回転/日)
- ・通気：2カ所(エアストーン使用，それぞれ1 L / 分に調整)
- ・給餌：自動給餌機使用  
飼育水の水質に配慮し，概ね自動給餌機停止後に飼料が底面に残らない量を与えた。  
初回設定：日清丸紅飼料(株)製「なぎさ4号」44 g / 日  
試験開始35日目～：「なぎさ4号」88 g / 日，  
試験開始74日目～試験終了：同社製「おとひめEP2」142 g / 日
- ・試験期間：平成22年4月23日～平成23年3月22日(11ヶ月間)
- ・その他：1日に数回，状況を観察し，斃死があった場合はその都度取り上げた。

### 【結果及び考察】

試験期間中の成長を図1に示す。

23年3月16日(試験開始327日目)の測定では，平均全長は約13cm，平均体重は約42gであった。

水質重視の給餌を行ってきたが，店頭で見かけるサイズ(約15cm)程度に達しているものも見受けられた。ただし，最も市場価格が高いとされる体重200gサイズにまで成長するにはかなりの日数を要

することが予想された。今後は成長重視の飽食給餌を行うなどの検証が必要である。



	斃死尾数
4月	8
5月	54
6月	15
7月	3
8月	2
9月	0
10月	0
11月	1
12月	1
1月	2
2月	0
3月	5
合計	91

表2 月別斃死尾数

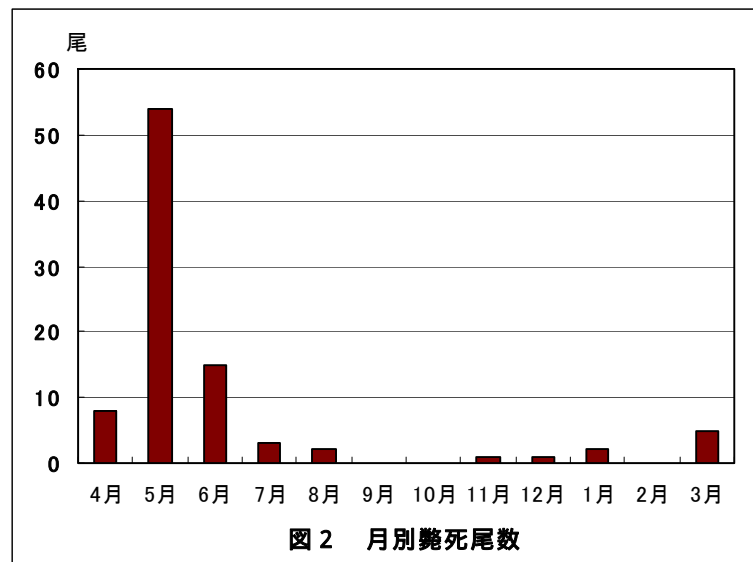


図2 月別斃死尾数

次に、生残に関する結果として、試験期間中の月別斃死尾数を表2、図2に示す。

一般的にカサゴは夏期の高水温に弱いとされ、本センターで飼育していた親魚についても夏期の斃死が目立ったが、本試験では、移槽や飼育密度の変化に伴うストレスが原因と思われる試験開始1～2ヶ月後までの斃死が目立つ結果となった。

期間中に疾病の発生等は無く、試験終了時の生残率は90.9%と非常に高い値を残した。これは、飽食給餌を行わなかったこと、換水率を高め設定したこと等の効果と考えられ、実用的な条件とは言い難いが、500尾/tという高い飼育密度下での結果であり、特に陸上施設を使用した養殖形態に可能性を示す内容と言える。

今後は、本試験をより発展させ、採算性の検証等、さらに踏み込んだ試験に着手できればと考えている。